

二十歳以下ならジュニアの、  
16歳以下ならユースのアジ  
アチャンピオンという称号  
が与えられる。

2015年12月25-27日 香港  
アジアジュニアユース選手権大会

## アジア No.1 の称号

2008年に始まったアジア選手権に加えて、今年からアジア地区のジュニアユース選手権がスタートする。もちろん参加者は20歳以下のジュニアと16歳以下のユースに限られるが、二十歳以下ならジュニアの、16歳以下ならユースのアジアチャンピオンという称号が与えられる。香港や中国のジュニア・ユースは侮れない存在だ。それだけにアジア1という称号は大きなご褒美となるだろう。

時期は12月、場所は香港である。25日から27日の3日間の日程で、スプリントリレー(25日)、ミドル(26日)、スプリント(27日)の日程で行われる。このレースをイチオシする理由はいくつもある。

第一に、日程である。25日ともなれば日本は年末年始という特別なお祭り感のある休暇だが、香港もこの時期クリスマスである。夜景で有名な香港がクリスマスイルミネーションでひときわ綺麗に見えるのがこの時期である。

第二に、日本の寒さを忘れられる。この時期の香港は天候も安定しており、熱くも寒くもない。レースをすると軽

く汗ばむくらい。日本の寒さを忘れて、ミドルやスプリントにはうってつけの気候の中でオリエンテーリングができる。

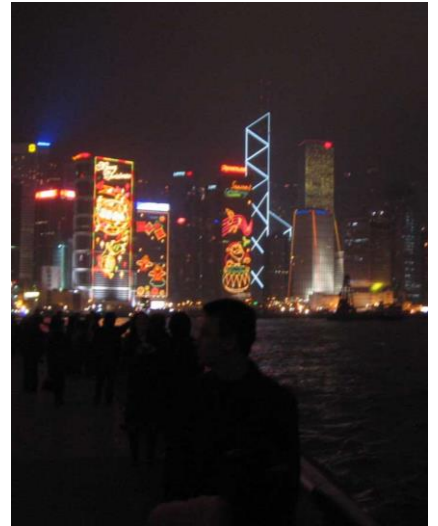
第三に、トレイン。ミドルこそ通常の「森」のトレインで行われるがスプリントの2レースはいずれも都市公園や公園と市街が入り交じった場所で行われる。香港の市街といえば九龍城が有名であった。それには及ばないものの、スプリントらしい複雑な市街地のオリエンテーリングが楽しめる。森といっても香港で実質的に利用可能なトレインの多くはオープンである。今回のミドルでも沙田(シャティン)の裏山である昂平(ニョンピン)が使われる。高層ビルやアパートを遠目に眺めるオリエンテーリングは香港ならではの。

最後に、香港と言えばおいしい中華料理とショッピングだ。足裏マッサージも挙げたいところだが、この大会の主役であるジュニア・ユース諸君にはあまり関心がないかもしれない。リーズナブルな値段で日本にない味の点心が気軽に楽しめるのも香港ならではの。安めの店では中国語のメニューしかないから、漢字の知識を駆使して、どきどきしながら注文するのも、香港での点心料理の楽しみの一つだ。

今回の魅力はもう一つある。それはジュニアのためのトレーニングキャンプが併催されることだ。23-24日の両日、アジアのジュニア・ユースたちが集う。しかも、講師はヨーラン・アンダーソン。1999年のイギリスの世界選手権でイギリスチームからイベット・ベカー

ーという金メダリストを出し、現在では学校でのオリエンテーリングの導入に指導的役割を果たしているヨーランの指導は、それだけでも訪問するに値するものだ。

(村越 真)



クリスマスシーズンの九龍半島の夜景は一見の価値あり、



この猥雑な大会会場の雰囲気も香港らしさの一つ。



前回のジュニアキャンプの時の夜のミーティングの一コマ。若者のための教育としての側面を強く持つ香港のオリエンティアたちは楽しませ上手。言葉は通じなくても楽しい交歓の時をすごした、



香港らしさの真髄がこれ。  
遙かに高層ビルを眺めながらのオリエンテーリングこそ香港ならではの経験だ